

授業科目名	児童心理学【(イ)】
授業科目名(英字)	Child Psychology
時間割	前期 火曜日 2校時 教授法演習室
対象年次及び学年	2年次
担当教員	松本 博雄
ナンバリングコード・水準	
ナンバリングコード・分野	
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)	bcf
ナンバリングコード・提供部局	L
ナンバリングコード・対象学生	
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	
ナンバリングコード・授業形態	Lx
ナンバリングコード・単位数	2

関連授業科目	乳幼児理解の理論・方法／心理学C
履修推奨科目	
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)
授業の概要	<p>この講義では、学童期の世界とそれを支える営みについて、主に発達的な視点から考えていきます。学童期の教育においては近年「ひとりひとりに合わせた学び」という個別的な視点が強調されています。いっぽうで子どもの学びとは、おとなとの1対1の個別的な関係の中でのみ生じるのではなく、その子どもが所属する社会集団の中で、その歴史や文化に規定されつつ仲間とともに構成されていくものです。すなわちそれは、単におとなから与えられるものを個々の子どもが吸収する過程ではなく、他の仲間と互いに響き合うことを介してはじめて紡ぎ出されると考えられます。</p> <p>これらの視点をふまえ、この講義では、ヒトの発達に固有の特徴をまず検討します。続いて学童期の発達的な特徴について整理し、最後に教育の場でそれを支えるあり方を探りたいと思います。</p>
授業の目的	小学校教員をはじめとする、学童期の子どもたちと向き合う専門職を目指す上で必須となる基礎的な児童心理学理論および発達の視点を身につけること。(知識・理解)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学童期の子どものふるまいを発達の視点から説明できる。 2. 1. をふまえて「小学生の生活と心の発達」について論じることができる。 3. 専門職として学童期の子どもと関わり、その生活と学びを支えるうえでの手がかりを身につけることができる。
成績評価の方法	学童期の教育に携わるうえで必須の基礎知識の理解度を確認するために、上記の到達目標に沿って、期末に筆記試験(100点満点)を実施し、その結果に基づいて評価を行います。1/3以上の欠席がある場合は試験の受験ができません。
成績評価の基準	<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可(60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 インタロダクション 2 人間発達の特徴① 概説 3 人間発達の特徴② 発達段階とは 4 学童期：小学生の生活と発達をとらえる 5 1－2年生の社会と発達 6 1－2年生の生活と教育 7 3－4年生の社会と発達

<p>授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>8 3-4年生の生活と教育 9 5-6年生の社会と発達 10 5-6年生の生活と教育 11 学童期から思春期へ：発達特徴と支援 12 「学校で学ぶ」とは：学童期の豊かな発達を支える場を考える① 発達過程を振り返る 13 「学校で学ぶ」とは：学童期の豊かな発達を支える場を考える② 「いじめ」を考える 14 「学校で学ぶ」とは：学童期の豊かな発達を支える場を考える③ 子どもの「声」を聴きとる 15 まとめ：児童心理学の視点から学童期を見つめ、支える 16 期末試験</p> <p>本科目は『教職の基礎的理解に関する科目』区分における一般的包括的な内容を含む。 第1回に一般的包括的な内容を取り扱う。</p> <p>講義を中心に進め、参加型のワーク、視聴覚教材等も随時活用します。知識を身につけるだけでなく、それを生かして考えることをねらいとしているので、授業時に随時コメントペーパーを課す予定です。一般的な心理学の知識を暗記的に身につけたい方ではなく、学童期の子どもたちの姿を念頭におきながら、文献を読んだり、考えることをいとわない積極的な姿勢の方の受講を勧めます。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 各回テキスト・参考書該当部分購読とディスカッションメモ、振り返りミニレポート作成（各回事前1時間・事後1時間 計30時間）</p>
<p>教科書・参考書等</p>	<p>【教科書】 ・心理科学研究会（編）（2026）『新・小学生の生活とこころの発達』 福村出版 【生協にて購入】</p> <p>【参考書】 ・加藤弘通ほか（編）（2022）『教育問題の心理学：何のための研究か？』福村出版 ￥2700</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>前期火曜日 4限 水曜日午後（17:00まで）※ただし会議日を除きます 松本博雄研究室（教育学部8号館5階）</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p>	<p>・児童心理学（Ⅱ）〔後期間講〕と同内容となります。 ・参照ウェブサイトは以下です。 Kagawa Child Research Websites https://sites.google.com/site/kagawachild/</p>
<p>参照ホームページ</p>	<p>Kagawa Child Research Websites https://sites.google.com/site/kagawachild/</p>
<p>メールアドレス</p>	<p>matsumoto.hiroo@kagawa-u.ac.jp</p>
<p>教員の実務経験との関連</p>	
<p>特記事項</p>	<p>障がい等により本授業の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属学部・研究科の学務係（医学部・医学系研究科は学生係）又はバリアフリー支援室に事前に相談してください。</p>